

飛騨牛繁殖農家へ一歩

美濃加茂・研修センター



入所式で、決意を書いた色紙を掲げる
2期生。美濃加茂市牧野、飛騨牛繁殖
研修センター

岐阜大、全国農業協同組合連
合会県本部(JA全農岐阜)、
県の連携協議会が運営する飛騨
牛繁殖研修センターの2期生の
入所式が12日、美濃加茂市牧野
の同センター研修棟で開かれ、
ブランド和牛「飛騨牛」となる
子牛の繁殖農家を志す2人が入
所した。

同センターは、減少傾向にあ
る繁殖農家の担い手育成を目的
に2019年3月、岐阜大応用
生物科学部付属岐阜フィールド
科学教育研究センター美濃加茂
農場に開設された。1期生とし
て昨年度は3人が入所。本年度
は愛知県春日井市出身の木村大

「高い質を求める」2人が入所

介さん(40)、名古屋出身の花
房知朗さん(32)の2人が入所
し、2年間の研修に臨む。

2人は、恵那市の森林組合で
知り合い意気投合。畜産分野の
経験はなく、同センターで一か
ら教わり、将来は共に県内で繁
殖農家を経営する予定。

入所式では、連携協議会長を
務める岐阜大の福井博一副学長
が「2年間勉強し繁殖生産者と
して独立されることを期待して
いる」とあいさつ。JA全農岐
阜の西村寿文県本部長が作業用
のつなぎと帽子、つま先を保護
した長靴を手渡した。木村さん
は「小さく始めて大きな農場を
目指したい」、花房さんは「高
い質を求めて牛を育てたい」と
抱負を語った。

(沢野都)